愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2023年度	開講期(Semester)	前期
授業科目名(Course name)	福祉と社会		
担当者(Instructors)	岩本 義浩	配当年次(Dividend year)	2
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

社会には、福祉的支援を望む人と望まない人、更には福祉的支援を知らない人たちがいます。 実社会では、自分たちの生活に必要のない制度についてはあまり知られていません。また、福祉的制度を利用することを恥ととらえる概念だったり、自分より不幸な人に使って欲しいと誤った考え方の人も結構おります。 そんな、人たちや福祉的制度を受けたいのに受けられない人に対して伝えることから興味や理解することにつながる人もいます。 そのような人たちへの支援を紹介していくことが福祉従事者だと思います。理解して戴くためには、適切なサービス制度や各支援の基本的対応を理解することが必要と考えています。 本授業は、社会生活を行うにあたり様々な事例や事柄を通じて物事の課題と解決そして利用者へのより良い支援の懸け橋を行うことを目的とし理解していく。

■授業形態・授業の方法(Class form)		
授業形態(Class form)	講義	
授業の方法(Class method)	授業は、学生の視点や気づきに触れられる機会を多く持つようにする。 授業は、教員によりテーマについて説明を行い、テキストから必要な法律・制度を学生に理解してもらう。 映像や説明から学生同士の意見から気づきを授業最後に書いて戴く。その意見をもとに次の講義で発表や報告 をしていきたいと考えている。	

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)			
回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分 (Media)
第1回	福祉からみえる社会のあり方	本講義のねらい、到達目標の確認、授業の展開方法の説明。日本の 社会問題の切り口について説明していく	
第2回	出生前診断のあり方	出生前診断を通じて診断後の心の様子を母親目線で旧優生保護法を 踏まえ理解する	
第3回	親の子育で問題	核家族・ひとり親による育児放棄や低所得化による生活困窮課題に ついて理解する	
第4回	障がい児を持つ親への支援	親亡き後の不安材料をどの様に緩和していくことが出来るのかその 方法について理解する	
第5回	障がい者の自立生活支援 I 親元を離れ た生活	障がいを持つ方が成人を迎えどの様な自立生活へ向けて支援してい けるか親元を離れた生活について理解する	
第6回	障がい者の自立生活支援 II 働くことの 意義	障がいを持つ方が成人を迎えどの様な自立生活へ向けて支援してい くか就労・労働の展開法について理解する	
第7回	ヤングケアラーへの支援	就学児童が身内の介護に関わることで授業・友達・社会から孤立す る現状がある。その問題について理解する	
第8回	障がい者・高齢者への権利擁護	障がい者・高齢者への代弁者としてどの様に支援を行っていけばよ いのかについて理解する	
第9回	障がい者+LGBTQ+(福祉的介在)=より よい生活の実現	障がいを持ちながらトランスジェンダーとして生きる方を通じてど の様に生活支援を行っていくかを理解する	
第10回	後期高齢者の自立生活支援Ⅰ	独居高齢者で身内の居ない方の生活の現状について理解する	
第11回	後期高齢者の自立生活支援Ⅱ	高齢者の認知症を患うについて生活の現状とについて理解する	
第12回	災害時要配慮者への支援	様々な災害課題の中に要配慮者への支援について理解する	
第13回	地域福祉の課題と展望Ⅰ	障がい者・高齢者・薬物依存者など現在の課題と対策について理解 する	
第14回	地域福祉の課題と展望Ⅱ	福祉・医療・保健に関わるモビリティ社会と過疎化する住民の課題 について理解する	
第15回	未来都市構想における福祉の在り方	日本型スーパーシティ構想の在り方として今後展開される福祉につ いて理解する	

■授業時間外学習(予習・復習)の内容(Preparation/review details)

授業前に各テーマに関して調べておく(2時間程度)。日常生活で福祉的出来事のニュースなどについては意識して記事を読み、テキストの 法令の理解、授業中に配布した資料等を用いて課題レポートを作成する(2時間程度)。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

授業に関する簡単な課題(質問項目を含む)を当日実施し授業時間内に回収する。次回課題について一部抜粋し担当教員から応えるシステムにする。授業の冒頭出欠実施する。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)			
区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)	
知識・技能	◆ 2019全学共通DP1	日本社会の狭間で生きる人々の問題や苦悩について理解し、どの様な支援をしていくことが必要なのかを自ら気づける視点を見つける。併せて学習した内容について自分の意見が持てているか作問を通じて答えてもらう。評価基準は、気づき・論理的思考・明瞭な意見・興味を持つ視点・ユーモア性。	

■成績評価(Evaluation method) ** 筆記試験(Written exam) 実技試験(Practical exam) レポート試験(Report class exam) その他(Other) 20%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

授業への積極的参加「授業内容にかかわる発言・文章」(10%)と課題の提出(10%)を評価対象にします

■テキスト(Textbooks)			
No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)	
1	福祉小六法編集委員会編「福祉小六法2023年版」みらい(定価1870円)	978-4-86015-591-9	
2			
3			
4			
5			

■参考図書(references books)		
No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1		
2		
3		
4		
5		